

1) システムの名称 :

PDA 端末によるリスクマネジメントシステム (SBS DoctorX / PrimeKarte, PrimeOrder サブシステム)

2) 対象業務、電子カルテシステム内での位置付け :

8. 看護・介護系 (リスクマネジメントシステム)

3) 特色 :

■注射の実施確認

職員 ID (バーコード)、患者リストバンド、薬剤ボトルラベル (バーコード) を PDA でスキャンし、正確な照合および入力を行います。これにより患者の取り違え等の医療過誤を防止します。
オーダエントリシステムとの連携により、注射の実施データは無線 LAN を通じてサーバに送信され、オーダエントリ端末より注射の実施確認が行えます。(オーダエントリシステム側の設計による)

■バイタル入力

PDA を用いてベッドサイドからバイタルの入力が行えるため、煩わしい転記作業が軽減されます。
バイタルデータは、無線 LAN を通じて即時にサーバに反映され、リアルタイムで最新情報に更新されます。

■観察項目の入力

PDA を用いてベッドサイドから観察項目の入力が行えるため、業務効率が向上します。
観察記録データは、無線 LAN を通じて即時にサーバに反映され、リアルタイムで最新情報に更新されます。

■患者情報の確認

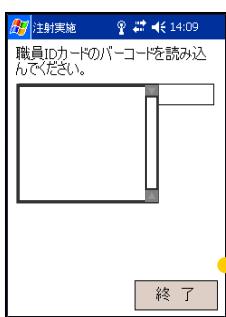
PDA には最新の患者情報をリアルタイムに表示できるため、ベッドサイドで患者情報や医師が入力した指示の内容を確認することができます。

4) 画面／構成図を含めた分かりやすい説明 :

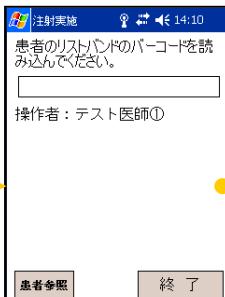
【PDA入力画面】

○注射の実施

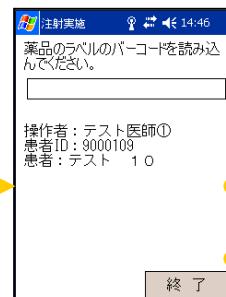
①実施者認証 (バーコード)



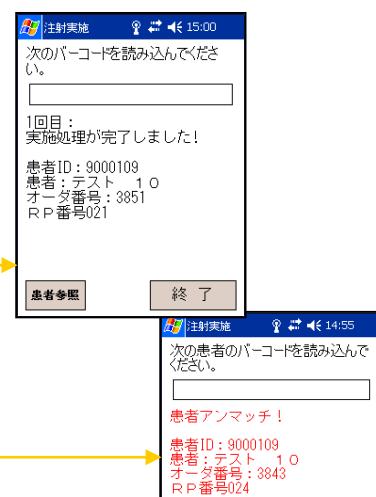
②患者認証 (バーコード)



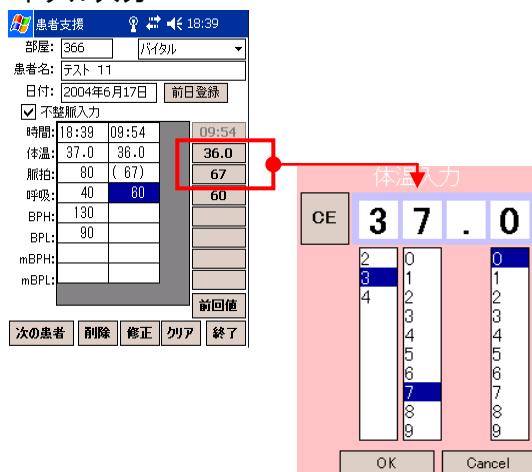
③実施入力 (ボトルラベル)



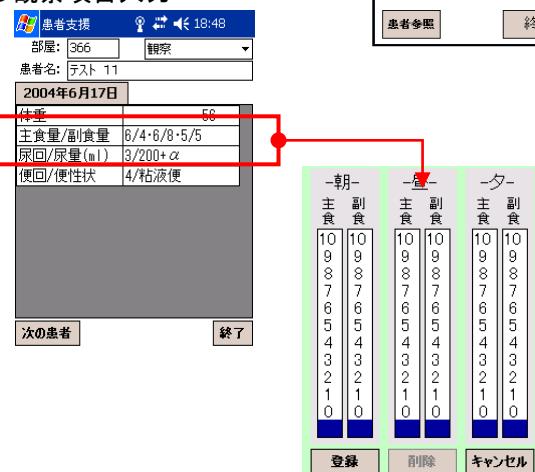
④実施完了 (エラー !)



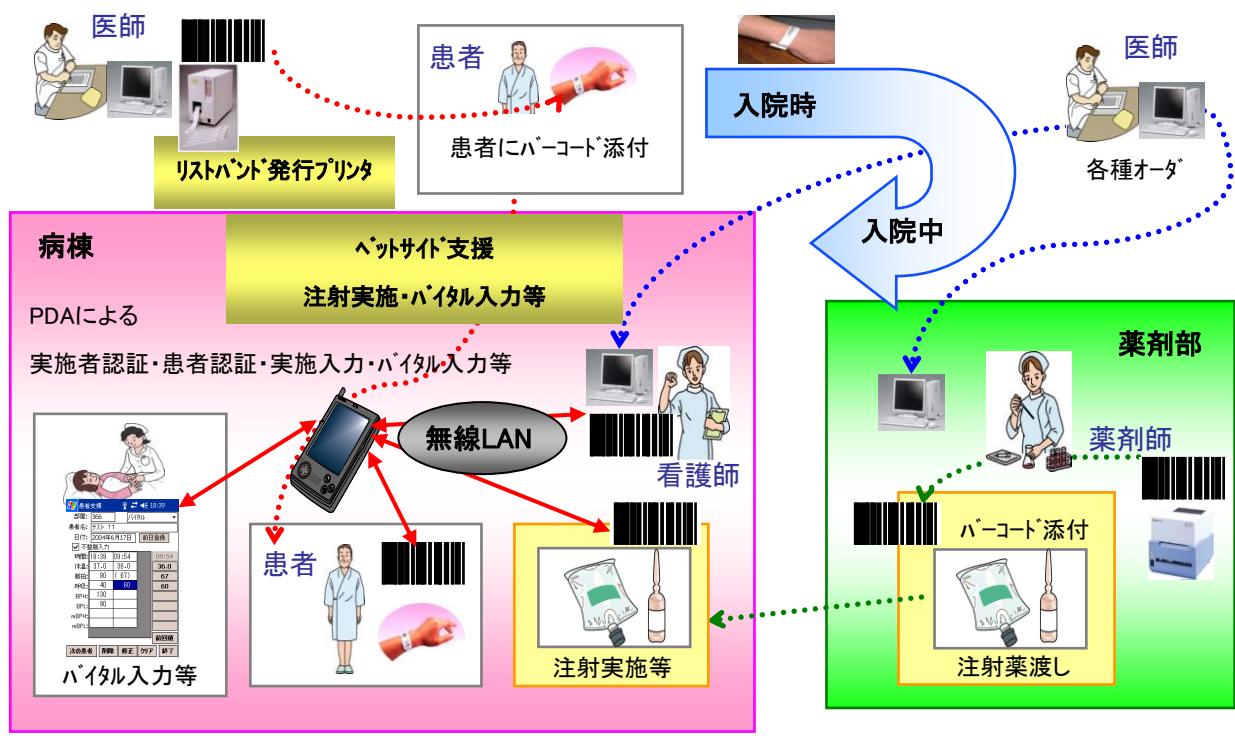
○バイタル入力



○観察項目入力



【リスクマネジメントシステム運用イメージ】



5) 標準化への対応状況、未達成の場合対応予定および対応のための追加費用の有無 :

データ交換規約 : HL7 (Ver2.5) / 患者基本(ADT) 各システムとの連携に利用可能

データ交換手法 : TCP/IP ソケット、XML ファイル

6) 動作環境 (ソフトの場合)、ハードスペック (ハードの場合) :

【サーバ構成】

Windows2003Server (R) 日本語版以降 (当社製看護支援システムのサーバと共に)

【PDA 構成】

Windows Mobile (R) 6.1

※弊社製看護支援システムパッケージ必須

7) 稼動までに必要な作業・期間 :

病院担当者様及び部門システムベンダ様との打合せ (仕様の確定まで) ・半年程度

8) 価格 (桁数 (日本円における桁数)、「ご相談」は不可、桁数帯・金額・金額帯を入れても良い) :

300 万円～ (パッケージ費用) + 連携 SES (他システムとの連携、機器費・交通費除く) (※税別)

9) 保守の内容と費用 :

初期教育 : 看護師向け講習会開催

初期導入保守 : 稼動及び運用開始立会い

遠隔保守 : SBS DoctorX / PrimeKarte 保守料に含む

通常保守 : 月額 3 万円～ (電話等による Q A 対応。サーバの定期監視、障害発生時訪問による交通費除く)
(ハード保守費除く) (※税別)

10) 問い合わせ先 (販売会社 担当者、URL、e-mail 等) および開発元 (もし別途あれば) :

問合せ先 : 株式会社 SBS 情報システム <http://www.sbs-infosys.co.jp>

〒422-8033 静岡県静岡市駿河区登呂 3-1-1

TEL : 054-283-1450 ; FAX : 054-284-9182

医療事業本部 営業担当

Mail : iryo@sbs-infosys.co.jp